



(株)TYKにおける防災活動



岐阜県多治見市 (株)TYK 安全衛生室
日下部 芳文

1 会社の概要

株式会社TYKの社是は“仕事を通じて世界に喜びと感謝の輪を広げる”です。昭和22年2月5日の設立で、今年で創業68年目を迎えました。「東京窯業株式会社」の名で発足し、昭和63年に社名呼称を株式会社TYKにして現在に至っております。耐火レンガの製造に始まるTYKの歴史は、世界を支える基幹産業とも言える鉄鋼・非鉄産業及び自動車産業と一体となって発展し、確固たる専門領域を築いて来ました。さらに、異なる製造現場に合わせた営業活動を徹底し、世界各国から製品を求められるグローバル企業へと発展を続けています。現在は、伝統の耐火物のさらなる進化に取り組みつつ、ファインセラミックをはじめとする先端材料、時代のニーズに合った環境関連分野にも進出し、継承と挑戦を繰り返しながら時代の求められる企業を目指しています。

2 防災活動

1. 自衛消防隊と観閲式

昭和56年に、五十数名の隊員と可搬ポンプ積載車2台を購入し「TYK自衛消防隊」が発足した。自衛消防隊は消防訓練の他、多治見市南消防署署長らを迎えての「観閲式」を年3回のペースで、現在までに69回実施しています。「観閲式」では大畑・赤坂・研究の3チームによる小隊で、停止間の規律訓練後、代表1チームにより可搬ポンプ積載車を使い

遠くに発煙筒を設置して消火するポンプ操法訓練を行い、操法訓練終了後に消防署からの講評で終了します。

2. 南消防署との合同訓練

南消防署とTYK自衛消防隊の合同訓練では、「震度7クラスの地震が発生し、亀裂の入った大型タンクから漏れだした油に引火した」との想定で、TYKから約50名の隊員と可搬ポンプ車2台が出動し、地下タンクから水を汲みだして消火に当たったほか、南消防署からは化学消防車などが出動しました。

3. 多治見市消防出初式

平成12年より、多治見市消防出初式に参加をするようになって、今年で14回目となりました。出初式では地域消防団に交じて分列行進を行い、可搬ポンプ車2台と一緒にTYK消防隊員25名~30名が参加して街の中心地約1.5kmの道を行進します。分列行進の後は会場である土岐川河原で、子供・女性・地域防災活動の人達の消火器訓練の後にTYKの可搬ポンプ積載車を使つての放水を行い、



消防出初式で市内を行進



TYK自衛消防隊可搬ポンプ車の行進

その後地域消防団の放水が始まって、出初式は最大の盛り上がりとなります。

4. 多治見市との災害応援協定

平成18年には多治見市と「災害応援協定」を締結して非常時に連携して災害応急対策を実施出来るようにしました。応援内容はTYK事業所を中心とし、おおむね土岐川以南地域で、応急的な活動に限定し、①消火、延焼の防止等の消火活動、②被災者の救出、応急援護などの救助活動、③土嚢づくり等の水防活動を行う事にしています。

5. 救命講習とAEDの設置

多治見市は心肺蘇生法、AED等の救命講習を行っており、年間受講者1万人を目指しています。TYKでは平成14年から本格的に救命講習に参加する様になり、今までに延べ人数約670名（工場全従業員の2.3倍）が救命講習を受けており、今でも新入社員の研修では勿論、社内で

年2回位のペースで救命講習会を実施しています。社内には平成22年にAEDを3か所に設置し、フロントのAEDは近隣住民も利用できます。

6. 多治見市「応急手当推奨制度」

多治見市では平成23年4月1日から「応急手当推奨事業所認定制度」が施行され、市内の事業所における救急救命講習の普及促進や、受講者のレベルアップを図っており、従業員や市民の命を守る事業所として当初から認定されました。

7. 緊急地震速報の設置

社内放送システムに緊急地震速報受信端末を設置して、社員にいち早く地震情報を確認出来る様になりました。今後はこのシステムを利用して、避難訓練等を定期的実施して行きます。これに合わせて、地震の際の避難経路なども充実させる必要があります。

8. 結びに

私たちは、みんなが安心・安全な会社を目指して活動しています。現在は新入社員の減少で、実際活動出来る自衛消防隊員（入社から30歳まで実質的な自衛消防隊員）が減少傾向にある為に年齢を上げる検討も進めています。社長以下役職についている者は全員自衛消防隊員ですが、今後はこの役職も含めた活動も検討して行きます。



TYK自衛消防隊放水訓練